

## 再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：川崎 茂信

事業名	一般国道506号 豊見城東道路		事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自：沖縄県豊見城市名嘉地 至：沖縄県南風原町山川				延長	6.2km
<b>事業概要</b> 豊見城東道路は、那覇空港自動車道の一部を形成し、那覇空港へのアクセス性向上に資するとともに那覇都市圏の交通混雑の緩和を目的に計画された2環状7放射道路として、地域の産業、観光及び地域振興プロジェクトを支援する道路で、豊見城市名嘉地から南風原町山川に至る延長6.2kmの高規格幹線道路である。						
H3年度事業化		H2年度都市計画決定		H5年度用地着手		H9年度工事着手
全体事業費	1,230億円		事業進捗率	約94%	供用済延長	6.2km
計画交通量	38,200台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 4.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 71/1,624億円 (事業費：62/1,578億円 維持管理費：9.7/46億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 310/2,495億円 (走行時間短縮便益：258/2,031億円 走行経費減少便益：29/287億円 交通事故減少便益：24/177億円)	基準年 平成25年		
<b>感度分析の結果</b> (事業全体) 交通量変動 B/C=1.3~1.7 (交通量±10%) (残事業) B/C=1.3~7.9 (交通量±10%) 事業費変動 B/C=1.5~1.5 (事業費±10%) B/C=4.0~4.8 (事業費±10%) 事業期間変動 B/C=1.5~1.5 (事業期間±20%) B/C=4.1~4.3 (事業期間±20%)						
<b>事業の効果等</b> ①円滑なモビリティの確保 ・損失時間の削減が見込まれる。 ・第二種空港へのアクセス性が向上。 ②個性ある地域の形成 ・那覇空港から海洋博記念公園へのアクセス性が向上。 ③安全で安心できる暮らしの確保 ・第3次医療施設へのアクセス性が向上。 ④地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。 ⑤生活環境の改善・保全 ・NOX排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。						
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 豊見城東道路は、那覇空港自動車道の一部を形成する高規格幹線道路であり、那覇空港へのアクセス向上、那覇都市圏の交通渋滞の緩和、地域の産業、観光の地域開発プロジェクト支援する重要な幹線道路と認識している。 当該道路の整備により、沖縄自動車道と一体となり、本島中南部・北部の各拠点の産業、観光及び地域振興プロジェクト支援、物流の効率化及び交通混雑の緩和が期待できることから、早期の事業完了が必要である。 このため、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意する。						
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。						

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・那覇市周辺部、なかでも豊見城市、南風原町の人口、自動車保有台数の伸び率は高い。
- ・県全体の観光客数は増加しており、本島南部と中部・北部を結ぶ道路としての期待大。
- ・平成24年度には「国際物流拠点産業集積地域」制度が創設され、那覇空港自動車道の整備により空港へのアクセス性が向上し、物流の支援も期待される。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は約94%(平成28年度末見込み)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・平成25年度に豊見城IC～南風原南ICが4車線開通
- ・平成26年度に豊見城・名嘉地IC～豊見城ICが4車線開通

施設の構造や工法の変更等

- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進。

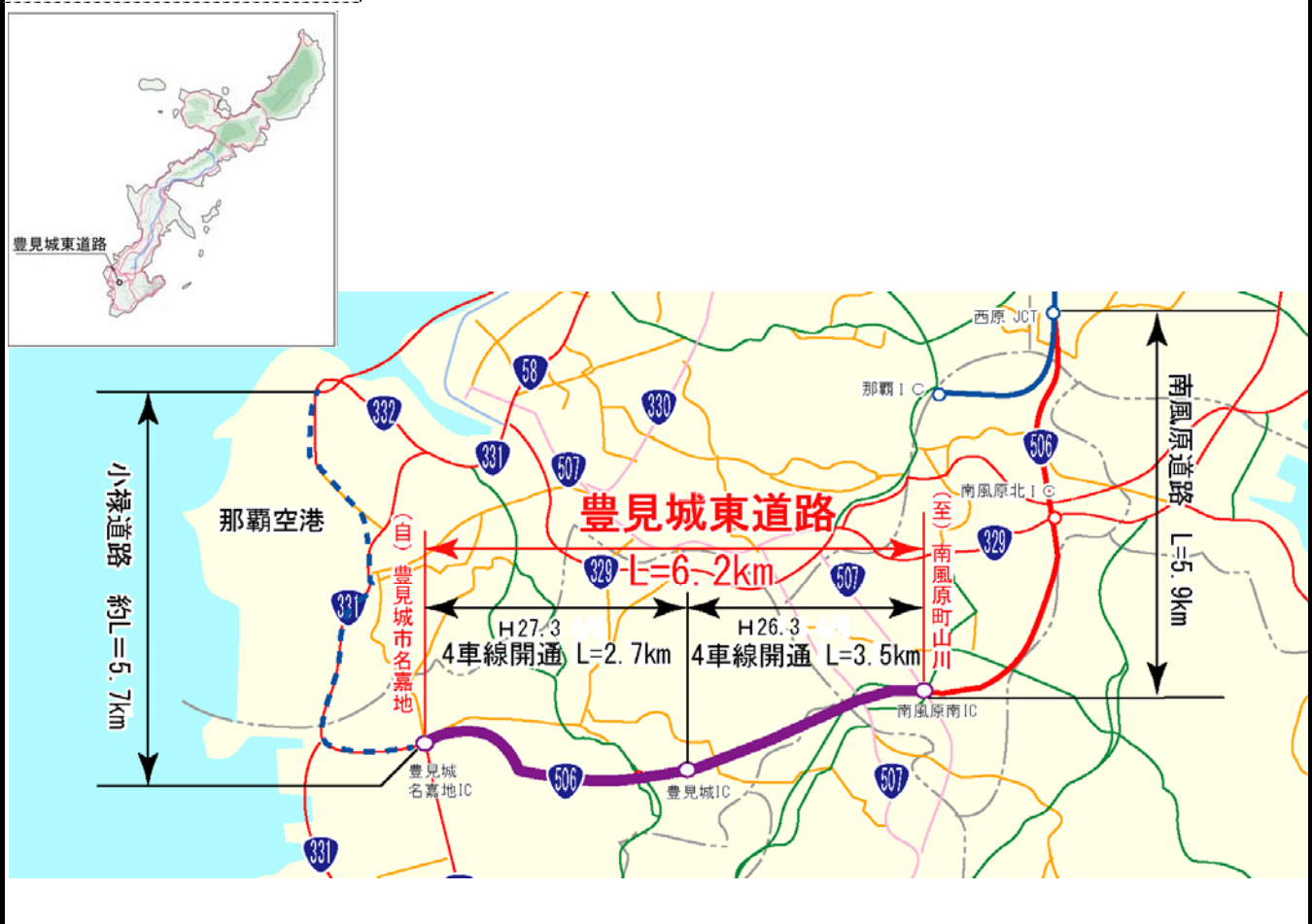
対応方針(原案)

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。